

令和3年度入学 一般選抜 試験問題の出典

盛岡短大部国際文化学科

種別	大問番号	著者名	著作物名	書名等	版元
小論文	国際文化 学科	齋藤 孝	コミュニケーション力	岩波新書, 2004年より pp.45-48	岩波書店

## 短期大学部

# 小論文 (90分)

学科・専攻名	ページ
生活科学科 生活デザイン専攻	1
生活科学科 食物栄養学専攻	2～3
国際文化学科	4～5

### 注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 志望する学科・専攻により問題並びに解答用紙が異なるので注意ください。
- 3 この問題冊子は5ページあります。なお、下書き用紙が2枚あります。
- 4 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督員に知らせください。
- 5 解答は、必ず黒鉛筆(シャープペンシルも可)で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 6 解答用紙(各学科・専攻別)には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入ください。
- 7 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入ください。
- 8 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 9 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りください。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

世間話は何気ない話題でお互いの交流を図るものだとすれば、それと対照的なのが、いきなり本題から入るといふやり方である。これも世間話と同じく、コミュニケーションの一つの技だ。

本題にすつと入ることで、お互いに時間が無駄にならない。忙しい相手の場合は、このやり方が喜ばれる。相手の関心はその用件にのみあり、人格的な交流などはさして望んでいない場合もある。そうした状況では、本題から入り、用件をさっさとすませるのがお互いにとっての幸福だ。

だが、いきなり本題に入るといふ技は、身に付いていない人がやると、単にぶしつけになってしまう。日本では伝統的に本題に入る前に挨拶が長々と行われた。それが相手に対する礼儀という意味合いもあった。しかし、外堀を埋めるようにして徐々に本丸に近づいていくようなやり方は、現代のコミュニケーションには合わない場合も多い。会議などでも本題の審議に入る前の報告事項が長すぎて集中力が損なわれるケースがよくある。いきなり本題に入る技が組織(システム)として欠如しているのである。

事柄の重要度・優先順位にしたがって話の順序を決めていく、というやり方は合理的だ。だんだん重要な問題に移っていくのではなく、もっとも重要な問題から話を始める。途中で障害が起こって話が途切れても、もっとも重要なことだけは話し終えている、というやり方である。この「事柄の優先順位にしたがった話し方」を技として意識的に身につけると、ビジネス・コミュニケーションの武器となる。世間話の技とこの技を、状況に応じて使い分けることができれば、ハイレベルなコミュニケーション力と言えよう。

このようにコミュニケーションのさまざまな要素を技として捉え直す観点には、違和感を持つ人もいるかもしれない。コミュニケーションとはもっとも自然なものだ、という観点からの疑問だ。だが、現代においては、コミュニケーションは格段にスピードアップされている。的確に要旨をつかみ、自分の言いたいことを伝えねばならない。そのテンポは加速している。仕事の状況では、なおさら厳しく的確なコミュニケーション力が求められる。つまり、要求されているコミュニケーション力の水準が高くなってきているのである。それに対応するには、コミュニケーションを一度、技として捉え直す観点が必要なのである。

さらに言えば、現代日本の状況においては、自然なコミュニケーション力が身に付きにくいという事情がある。きょうだいも少なくなり、家族全体が縮小し、関わる人間の数が成長過程において減ってきている。異年齢で遊ぶことも少なくなり、からだを使った遊びも減ってきている。写真家の土門拳が撮影した昭和の子どもたちの姿には、ごく自然にからだでコミュニケーションしあう子どもの集まりがあった。子どもは大勢の人の中で育つものであった。だが、いまや状況は変化した。子ども部屋に閉じこもっていても暮らしていけてしまう状況が出てきた。自然なコミュニケーション力を支えていた基盤が崩れだしているのである。世間話も、もはや自然な技ではなくなってきている。したがって、コミュニケーションを技として捉え直す必要があるのだ。

(齋藤孝『コミュニケーション力』, 岩波新書, 2004年, pp.45-48より, 一部改変)

問 1 作者がコミュニケーションを技と考える理由を 200 字以内で説明しなさい。

問 2 作者は繰り返してコミュニケーションを技として捉え直すことの必要性を主張している。作者の主張について、あなたの考えを 600 字以内で述べなさい。